

新しい薬学をめざして

Vol.43 No.2
2014.3.1

発行 新薬学研究者技術者集団

〒555-0024 大阪市西淀川区野里3丁目6-8 E-mail shin-yakugaku@tea.ocn.ne.jp
(有)大阪ファルマプラン・あおぞら薬局 気付 郵便振替口座 01090-8-16463
TEL 06-6477-8080 (担当 稲垣) FAX 06-6477-8082 URL http://pha.jp/shin-yakugaku/



福島の間 (その8) 原発事故は健康状態を悪化させる (2)

佐藤政男

「肥満傾向児」が急速に増加した2012年度

文部科学省の学校保健統計調査で、東京電力福島第一原発事故後、福島県の子どもの肥満傾向が報告された。2012年度の男女を合わせた「肥満傾向児」の比率は、5～9歳の各年齢で全国で最も高く、10、11歳も2位だった。10年度と比べると、男子は6歳で10年度の約6% (9位) から11% (1位) となった。女子は8歳が8% (17位) から15% (1位) へと二倍近い急増ぶりだった。教育委員会は「原発事故後、避難生活や屋外活動の制限が長く続いたことによる運動不足やストレスが原因」という。(読売新聞2012年12月26日)

(注)「肥満傾向児」とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者。例えば、11歳男子の全国平均値10%とは、肥満度20%以上の者の割合が11歳男子児童の10%であることを意味している。

「肥満傾向児」全国一の学年が多くなった2013年度

問題は事故後の一時期の問題にとどまらない。文科省調査を基にした福島県統計課編2013年度学校保健統計調査速報によれば、依然として肥満傾向が続いている。

・男子の「肥満傾向児」の比率は、5、8～10歳、12～16歳の各年齢で前年度より増加し、10歳が約21%で最も高くなっている。

・女子は、10～13歳、15～17歳の各年齢で前年度より増加し、17歳が15%で最も高くなっている。

・男子・女子ともに全ての年齢で全国の平均を上回った。

目次

□福島の間 (その8)	佐藤政男…………… 19	□薬学系女性の社会活動参加状況についてのアンケート調査	寺岡敦子・三原啓子…………… 30
□サプリメントの臨床的有用性を検証する その2		□第7回運営委員会報告……………	38
グルコサミンの有用性	廣田憲威…………… 24	□新薬学者集団2014年度総会・シンポジウム……………	38
□抗肥満剤セチリスタット(オブリーン®錠)の薬価収載 保留が投げかけた課題	寺岡章雄…………… 26		